

## 人は生まれ 人は求め 人は死す

2020年7月24日私は喜寿になっています。高齢になるのに従って仏教などの哲学書も多く読んでいます。これらの中で私が最近読んでいる本に高神覚昇の般若心経講義(1)があります。この本は私がまだ3~4歳の頃にラジオ放送されたものを本にしたもので、今までに出会った般若心経などの仏教解説書の中で私が最も影響を受けた書です。私の後半人生の指南書ともいえるもので、現在毎日少なくとも1講(全12講)は読んでいます。その理由は仏教哲学「空」の説明に初めて納得出来たこと。心経の解説時の参照事例が数多くあり、かつ適切で素晴らしいものだったことによります。参照事例には哲学者、宗教者、文学、政治、兵法、など幅広くあり、ここを起点にして本を購入して読んだものも多くあります。

私はこの本で初めて宗教の必要性や彼岸や浄土(天国)といったものが、自分の心の中にあることを悟ることが出来ました。また宗教が必要であることも初めて真に認識しました。世界には数々の宗教があります。同じ仏教でも多くの宗派があり、さらに新しい宗派(新興宗教)もありますが、人がいかに生きるかを真剣に考えると、宗教(哲学)に達することも理解できました。

この本の第七講に心経の「無苦集滅道」を解説した項があります。ここで高神さんは、その昔ペルシャのゼミール王が、長い長い、それは長い、時間を費やして編纂させた人類史の結論について述べています。その結論は「人は生まれ、人は苦しみ、人は死す」という深刻な内容だったそうです。高神さんは人が苦悩が無いというのは「うそ」だといっています。煩悶が無いのは反省が足りないからで、苦悩があっても煩悶があっても煩悶それに気づかないでいるため、いや悩みがあってもその悩みに目覚めないのだと言っています。「法華経」では三界は火宅、つねに生、老、病死の憂患ありと言っています。四諦ではこれらの苦の原因は無明にありその無明を滅し涅槃に行く方法を述べています。釈尊は涅槃に行く道として中道が正しい道であると言っています。しかしながら般若心経(大乘仏教)では苦集滅道も無(空)といっていますので、苦集滅道にはこだわると言うことのようにです。

さてここで「人は生まれ 人は苦しみ 人は死す」ですが 人の一生を苦しみだけで表現することは悲しい気持ちになります。そこで私はこれに変わる言葉を探しましたが、結論として「求める」という言葉を選びました。すなわち「人は生まれ 人は求め 人は死す」です。最初と最後は真理であるためこれを変えることは出来ません。

さて、求める について自分の考えを記してみます。まず人は生まれたあと、しばらくは何を考えているかは判りませんが 母親の愛や母乳、排泄手当などを求めるものだと想像します。これらのことは本能によって求められるものだと思います。やがて成長するに従って本能的に求めるものは食事、自分のDNA存続のためのSEX その相手に対する愛などがあります。大人になるに従って、本能以外の自分や社会(文化)に役立つ活動を求めるようになっていきます。このためにお金、知識、芸術スポーツや地位や愛さらに年齢を重ねると健康や長寿さらに彼岸に達することを求める人も多いと思います。これらのいくつかは「幸せとか真理」という語でくられるものも多いと思います。また生まれながらにして、体の不自由な方も多く居りますが、求める事項に強弱はあると思いますが基本的には同じだと思います。一方体ではなく精神的に不自由な人は何かを求めるのでしょうか。私にはよく理解できないのですが、やはり何かを求めていると思いま

す。

これらの求めが得られた人もそうで無い人も、みな死んでゆきます。

死後の世界の存在について私はあると思います。しかしながらそれは生きている人間のところの中にのみ存在し引き継がれていくと思います。

そういう意味では釈尊はもちろんのこと吉田松陰や西郷南州も私の父母も皆私の心の中で生きています。

死後の世界があるか無いかの議論で、仏教では極楽浄土 キリスト教では天国などがありますが科学的に存在が証明できないし、ここでも生きている人のところの中に存在するものと思います。

物理学者、数学者でもあるパスカルは奇跡を経験していることや、有名な賭けの精神で繊細なる精神が在ることを説明しています。

しかしながらこれらのすべては生きている人の精神の中でのみにあると思われま

す。現代科学では養老孟子さんが言っているようにひとは死をもって終わりですが、これに対して渡部昇一さんは異論を述べています。しかしながら私は繊細なる精神が死者にもあることは考えにくく、これは生きている人の創造であり、考え方であると思います。

このため、わたくしの記録や記憶はわたくしの死後も生きている人の世界に生き続けるのではないかと思い、この文章も書いています。

コロナウイルスによる感染症(COVID-19)拡大防止と経済活動の活性化との両立、With コロナ時代の真ただ中であって時間的余裕のある中こんなことを考えました。

2020年7月24日(本来は本日2020東京オリンピックの開会式が予定されていた)

ひたちなか市 廣瀬 博

#### 参考文献

- 1) 高神覚正:般若心経抗議、響林社、2016年10月30日発行

